

ワクチン被害者の会

子宮頸がん 副反応治療法を

子宮頸がんの予防ワクチンを接種した女子中高生に重篤な副反応の報告が相次いでいる問題で、保護者らが「全

見成結で都内

国子宮頸癌ワクチン被害者連絡会」を結成した。二十五日、東京都内で会見し「娘の体に何が起きているのか、真実を知りたい」と訴えた。(上田千秋)

「迷路の中をさまよ。目。情報が知りたっている状態」。都内い。ただそれだけ」と在住の母親は、自身が声を絞り出した。

置かれた状況をこう表す。子宮頸がんワクチン現した。昨年八月にワは二〇〇九年十月に国クチンを接種して間も内で承認され、一〇年なく娘の体に異変が生四月から一部自治体でじ、魚が跳びはねるよ接種助成が始まった。うなけいれんが三〜四厚生労働省によると、カ月続いた。どこの病昨年未までに推計三百院へ行っても原因や治四十二万人がワクチン療法は分からず、訪れを接種。千九百二十六た病院はすでに八カ所人の副反応が報告さ

れ、うち死者一人を含む副反応と認識できていない。ただ、医師らが副みられ、実際にはこの

数倍に上るとの見方もある。

連絡会の会長には、中学二年の長女(巴)に歩行障害など重い副反応が出ている杉並区の松藤美香さん(四七)が就いた。松藤さんはこれまで匿名で報道機関の取材に応じてきたが、

「これ以上被害者を出さないことにつながるなら」と実名を明らかにした。

「副反応が出ても、ほとんど補償されていないのが実態。被害拡大に歯止めをかけるため、国はすべての情報を開示するとともに、早期に治療法を確立させてほしい」と話した。

子宮頸癌ワクチン被害者連絡会



「早期に治療法を確立してほしい」と訴える松藤美香さん(四七)東京千代田区で

「娘に何が起きたか、真実知りたい」

問い合わせは、連絡会事務局長の池田利恵・東京都日野市議 電話 042(594)1337へ。